

「地金の不思議」を受講して / JGS ニュースレター 2017 年 15 号 (4 月 12 日発行)

JGS 会員 繭山達也

ジュエリーと切っても切り離せない貴金属。宝石の知識が豊富でも、消費者からいつでも説明を求められる可能性がある貴金属の特性・取り扱いについてどれだけ自信を持って説明できるか自問自答してみた所、危機感を感じたので今回の勉強会に参加することにしました。



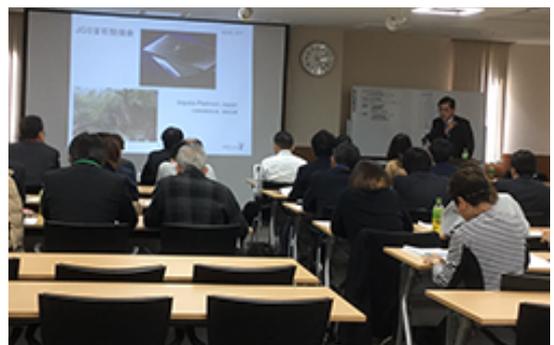
冒頭で技能検定「貴金属装身具製作」学科試験問題を抜粋した択一問題に一同でチャレンジ。難しい・・・どれも自信がない。講義を聞けば答えられるようになって聞いて、背筋が伸びました。



まず『貴金属の特性』について石福金属興業株式会社の細谷公崇氏よりご講義頂きました。改めて貴金属の希少性・不変性・展延性などが理解でき、ジュエリーに最適な素材であると実感できました。中でもロジウムはプラチナと同じ白金族でも約3倍硬く、プラチナ製品であるにも関わらず頻繁にロジウムメッキ

が施される理由が分かりました。

続いてプラチナの採掘量世界第2位のインバラ・プラチナム・ジャパン株式会社の須崎弘雄社長より『南アフリカのプラチナ鉱山事情』についてご講義頂きました。臨場感溢れる採掘現場の写真をしながら、最終製品が仕上がるまでの工程を細部に渡って説明下さり、あたかも現場にいたかのような臨場感を味わい



ながら深い知識を得る事ができました。地下 1000m のわずか 1m 幅の鉱脈まで、エレベーターとリフトを乗り継ぎ、採掘に向かう姿が、これからプラチナ製品を見る度に思い出されるでしょう。



最後に 7 種の貴金属プレート（純金・K18WG・K18YG・K18PG・K14WG・PT900・PT800）それぞれの「圧延加工により硬化したもの」と「焼鈍して軟化したもの」を実際に折り曲げて硬さの比較をする貴重な体験をしました。焼鈍することであるまで貴金属は柔らかくなる事（製品としては耐えられないレベル）に驚きましたし、

また K18PG は軟化状態でも十分硬さがあったのが印象的でした。

多くの宝飾業界に携わる方々にも貴金属の理解を深めるためにご参加頂きたい内容でした。

